

子どもの吃音について



きつおん

吃音とは、一般的に「どもる」と表現される、話し言葉が滑らかに出不い発話障害の1つです。

単に「滑らかに話せない」と言っても色々な症状があります。

主な症状

れんぱつ
連発

「お、お、おはよう」
音や音節を繰り返す

しんぱつ
伸発

「おーーはよう」
語の一部を不自然に
引き延ばす

なんぱつ
難発

「・・・おはよう」
言葉を発するときに
最初の音が詰まって
出ない

この他に、発話に伴って口や顔などに力が入り手足でタイミングをとるような動きがみられる場合もあります。

経過

吃音は2～4歳の子どもの約5%にみられます。症状はある日突然出始めることが多いです。そのうち7～8割程度の子どもが自然に回復すると言われています。年齢や環境によっても吃音の症状は変化します。症状の変化のペースは子どもによって個人差があります。そのため、関わりや支援も変えていく必要があります。

原因

吃音の原因は、「どもりやすい性質を持っている子どもが、急激な言語発達の途中で偶然に始まってしまう」と言われています。

これまで「親の愛情不足」「左利きを矯正したから」「育て方が悪いから」などと言われた時代もありましたが、現在は完全に否定されています。

特徴

- 1 言いやすい言葉と言にくい言葉がある
- 2 吃音の多いとき・少ないときの波がある
- 3 歌やみんなと一緒に言うときには吃音が出ない
- 4 長く話せば話すほど吃音が出やすい



家庭での対応

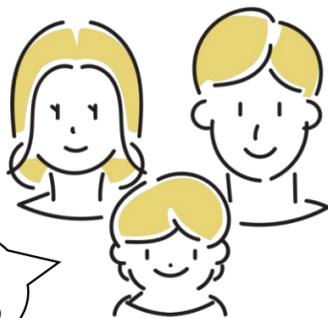
お、お、おかあさん
でーんしゃがあったよ！
か、か、かっこいい！



ほんとだね、電車があったね
かっこいい電車だね

- ✔ 子どもの話は遮らない
- ✔ 内容を復唱して“伝わっていること”を感じられるようにする
- ✔ 大人はゆっくり落ち着いて話す
- ✔ 「ゆっくり話そう」など、話し方のアドバイスはしない

どうして僕は
話しにくいんだろう



吃音って言うんだよ。
今のままでいいんだよ。

- ✔ 家族で吃音についてオープンに話す



- ✔ 吃音症状が多い時には、家庭では好きなことをしたり、ゆっくりできる時間を確保する

園・学校での対応

- ✔ 音読・号令 → クラスメイトと2人で一緒に言う
- ✔ 朝の健康観察の返事 → 手を上げるだけでOKにする
- ✔ 子ども同士の吃音に対するからかいは注意してやめさせる

事前に家族と先生で子どもに吃音があることを共有しましょう。
対応は一例ですので、子どもがどもりながらも話したいと望む場合は、子どもの気持ちをよく聞きながら対応を検討することが大切です。

吃音の相談場所

学校教育の場の一つである幼児指導教室（就学前）や通級指導教室（就学後）、言語聴覚士のいる医療機関も相談場所となります。
当院でも吃音の相談・訓練を行っておりますので、まずは、当院小児科へお問合せください。

